

公益財団法人 みんなでつくる財団おかやま

2018年度(平成30年度) 事業計画書



(平成30年3月4日理事会 議決)

平成30年度事業方針と重点テーマ

「 NPO を育てる力、社会的投資を促す力を強化する 」

平成29年度は事務局長の交代などあらたな体制で事業実施を行い、個人への依存でなく、組織で事業を行う仕組みづくりを進めてまいりました。平成28年度に作成したマニュアルや割り勘ワークブックを活用しながら見直しも行き、より組織として質を担保できる仕組みづくりを行いました。

また、平成28年度から実施している民間助成財団、自治体、中間支援組織の情報交換会や官民合同資金調達説明会の実施により、県内のNPO支援関係団体との関係性を深めてまいりました。

平成30年度は、事業の体制をより強化していくために、コミュニティ財団の本質である資源循環事業や寄付文化創造事業を中心に担うチームと受託事業等の事業を中心に担う事業チームを設置し、担当と責任を明確にすることで事業の質の向上を図ります。

様々な規模の助成事業が効果的に活用されるように、NPOを見つける力・育てる力を強化してまいります。

また、休眠口座の活用や遺贈寄付に関心が高まる中、社会的投資が推進されるように勉強会やモデル事業実施などに取り組んでまいります。

様々な立場の人、ひとりひとりが、自分の未来に対して主体的に取り組み、希望をカタチに出来ることを実感する、コミュニティ財団が地域にある意義・価値を体感できるように引き続き取り組んでまいります。



【3つの重点テーマ】

○「みつける」機能の強化

地域調査員との関係性の強化、また情報収集能力を強化し、積極的に地域の団体の情報をあつめ、NPO 団体の発掘能力を強化していきます。様々な団体の情報をえることで、情報発信の方法も検討し、団体をみつけ、情報をとどける機能を強化していきます。(助成申請件数の増)

○「そだてる」機能の強化

県内の助成団体や自治体と協力し、必要なところに必要なサービスが届くような連携体制を強化し、それぞれの団体の成長ステージにあわせた情報提供および必要な機関につなぐことができるよう体制整備していきます。

また割り勘事業等の助成事業で団体のサポート体制を見直し、自立心、経営力の強化につながるような仕組みづくりを行うとともに、寄付者とのつながりが深まるように、チャリティ企画などきっかけを多様化していきます。

○ 事業実施体制の強化（明確化）

受託事業も増えていく中、事業の質の担保と資源循環事業、寄付文化創造事業をより発展させていくため、受託事業の実施をメインに行う「事業チーム」および「資源循環・寄付文化創造事業チーム」を設置し、役割分担を明確にします。

スタッフ内の担当事業を明確にし、定例ミーティングでお互いの事業の情報共有を強化することで事業の質を高めていきます。また、協力会社やボランティアとの交流を密にし、チームとしての力を高めていきます。

**平成 30 年度もともに
歩みましょう！**



【事業内容】

A.資源循環事業

(1) 助成事業

ア 事業指定助成プログラム

事業を公募し、審査委員会で審査後、その事業に賛同する市民・企業から寄付募集を行い、寄付金を財源として助成を行います。

(今年度のポイント)

- ・ 受付方法や時期など制度の見直しを行うとともにソーシャルライターとの連携など、申請団体にサポーターをつける仕組みの検討を行う。

■上半期、下半期2回の実施

30~50万円の事業 × 3プログラム程度

イ 冠基金事業

基金を設置したい市民・企業から寄付金を募集し、寄付者の意向に従いテーマ設定をし、そのテーマでの事業を公募し、助成します。

(今年度のポイント)

- ・ 助成申請数増加のために、情報提供力の強化
- ・ 助成設計のスキーム化

■第5回助成の実施

第2四半期理事会において、助成方針を決定し、冬頃事業募集を実施する。特に今年度は、助成を届けることに力をいれ、ソーシャルライターや地調査員の活用など情報発信力を強化し、助成を行います。

ウ 社会変革基金

取り組まなければならない課題を可視化し、その課題解決に必要な資金を広く市民に基金を設置し、チャレンジを促すために助成を実施します。

(今年度のポイント)

- ・ 理事を中心に寄付募集の発信を強化する。

■地域助け合い基金（継続）

■みんつく子ども基金（継続）

第2四半期理事会において、今年度の助成方針を決定し、冠基金と同様に募集を行う。

(2) 円卓会議

様々な分野の人が集まり、一つのテーマについて考える会議の実施、課題について話すことで知恵や情報をだしあい、解決のための役割分担や啓発を行います。補助金・委託、クラウドファンディング等を活用し、助成設計の前段階として実施検討するとともに、行政や市民団体等から依頼があったテーマについて開催またはコーディネートを実施します。

B 寄付文化創造事業

チャリティーイベントや寄付文化について考える交流会、またイベントなどでの寄付付商品の開発などを行い、寄付を体験する機会を提供するとともに助成事業等の原資になる寄付集めを行います。

- 募金箱と乾杯チャリティーキットの設置場所のコミュニティ化
募金箱や乾杯チャリティーキット設置場所に定期的に情報提供するなど関係性を強化し、コミュニティ化します。
- 毎月 29 日「ツクる日」企画の開催
毎月 29 日に、寄付や社会的投資に関わる企画を実施します。
特に 3 月 29 日は、「みんつくの日」として企業や地域団体と連携し、寄付キャンペーンを実施します。
- 交流会・報告会の開催（年 2 回以上）
寄付者や助成団体などの交流会（6 周年記念交流会など）や報告会を開催し、みんつく財団に関係する人の交流の輪を広げます。
- 遺贈寄付の受付体制の整備
福祉関係事業者との連携など遺贈寄付の相談に対して、それに付帯する相談事項に対応できる体制構築を行います。
- 寄付の教室の開催（年 1 回以上）
寄付の教室を開催し、寄付やお金の使い方について考える機会を提供するとともに、学校や先生との連携強化し、岡山県内での機会提供の仕組みを構築します。

C 情報発信・人材育成事業

公益活動支援に関する内容について、講師・研修依頼およびコーディネートを受け付け、講演・研修・ノウハウ移転を実施します。また当法人主催で資金調達や情報発信など市民公益活動に必要な研修会を実施します。

■ 「+1セミナー」の開催（年2回以上）

必要に応じて、年に数回程度、寄付や市民公益活動に関するセミナーを開催します。通常は無料開催で、外部講師招へい時やファンドレイジングに関する専門講座は有料で開催します。

■ 講師派遣（年3回以上）

依頼のあった地域、団体に講師派遣を実施します。

■ ノウハウ移転事業（2団体以上）

自治体や公益団体に対して、資金調達や資源（補助金等）活用についてノウハウ移転および支援を実施します。平成30年度は、瀬戸内市の協働事業および岡山県の地域力向上支援事業などを実施します。

また、平成30年度は、岡山市で実施予定のSIB事業の仕組みづくり構築を関係団体と連携し実施します。

■ ソーシャルライター講座の開催（年1回以上）

地域の情報を発信するソーシャルライター講座を開催します。今年度は、割り勘実施団体との交流を意識し、講座受講後に発信、交流の機会提供を行っていきます。

D 調査研究事業

地域資源に関することや資金調達に関すること、地域課題に関することの諸調査を行い、その成果を発信するとともに、効果的な資源循環の仕組み構築に役立てます。また、必要に応じて、Share会議（市民団体による公開課題提案）を実施し、地域の課題のタネを収集し、調査研究や資源循環事業へと発展させていきます。

■ 地域調査員の活用（年1回以上）

情報収集・発信体制の強化のために、地域調査員や地域の核となるNPOを対象に情報交換会（交流会）を開催いたします。

- コミュニティ財団や社会的投資市場に関する研究
全国コミュニティ財団協会の情報交換会や会議を活用し、他県の状況や休眠口座活用法案等の制度のことなど情報収集を行います。

- 情報連携の体制強化（※岡山県地域力向上支援事業の活用）
平成 28 年度から実施している自治体や公益団体、金融機関と情報交換会を継続して実施するとともに、合同説明会の開催を継続して実施できるように実行委員会の設立準備をすすめます。

- 「Share 会議」の開催
割り勘申請団体の活動の拡散で実施するとともに、地域で必要な取り組みを育てるため、地域調査員や理事から情報収集を行い、候補団体に情報提供を行い、活動が進むようなサポートを行います。